

世界史を構造で読むIV

近代的統合の成立とその矛盾

はじめに

本分冊では、近代世界がどのように成立し、またその内部にどのような矛盾を抱え込んだのかを扱います。

第三分冊では、国家の再集権、軍事と財政の結合、海洋進出、商業資本、銀の世界流通を通して、近世世界が形成されていく過程を見ました。その結果、世界は政治的にはまだ分立しつつも、経済的には大きく結びつき始めていたのです。

本分冊では、その先に成立する近代世界を、次の三つの観点から考えます。

- ・ 主権の担い手は誰か
- ・ 生産様式は社会をどう変えたか
- ・ 国家は人々をどのように統合し、動員したか

市民革命は、支配の正統性を王から市民・国民へ移しました。

産業革命は、生産の仕組みを変え、都市・階級・労働のあり方を組み替えました。

国民国家は、人々を「国民」として包摂し、教育・徴兵・行政を通じて強く組織しました。

しかし近代的統合は、自由や平等だけをもたらしたわけではありません。労働問題、民族問題、女性や労働者の権利、植民地支配など、近代はその内部と外部に多くの矛盾も生み出しました。

本分冊では、近代を単なる「進歩」としてではなく、**統合が強まるほど、新たな対立や排除も生まれる時代**として捉えていきます。

○本分冊の見取り図

本分冊では、次の流れで近代的統合の成立と矛盾をたどります。

- ・ 市民革命と主権の再定義
- ・ 産業革命と生産様式の転換
- ・ 国民国家と動員の構造
- ・ 帝国主義と世界分割

- 近代的統合の矛盾

すなわち、主権の再定義 → 生産様式の転換 → 国民的統合 → 帝國的拡張 → 矛盾の露出
という流れです。

○本分冊の使い方

本分冊でも、学習の基本は同じです。

1. 各設問に対して、自分の言葉で答案を書く。
2. 模範解答と別解例を読み、構造の捉え方を確認する。
3. 教科書ナビを手がかりに、具体的な出来事や固有名詞を補う。
4. 章末の派生問いを通じて、近代の見方を広げる。

この分冊で特に意識したいのは、近代が何を可能にし、同時に何を生み出してしまったのかという問いです。

「自由」「国民」「産業」「帝国」「平等」といった言葉は、教科書では個別に出ています。しかし、それらは互いに深く関係しています。近代を理解するためには、それぞれの出来事を別々に覚えるだけでなく、主権・生産・国家・資本・国民・帝国がどのように結びついたのかを見る必要があるでしょう。

第四分冊の章構成

- 第 15 章 市民革命と主権の再定義
- 第 16 章 産業革命と生産様式の転換
- 第 17 章 国民国家と動員の構造
- 第 18 章 帝国主義と世界分割
- 第 19 章 近代的統合の矛盾

第 15 章 市民革命と主権の再定義

中心問い

王ではなく、市民や国民が主権の担い手であるとはどういうことか。

◆ 問 1

主権の再定義とは何か説明せよ。

【正統性 王権 市民】

模範解答

主権の再定義とは、支配の正統性の根拠が王や神授の権威から、国民や市民の意思へと移ることである。これにより国家は君主の私的支配ではなく、権利を持つ成員によって正当化される政治共同体として理解されるようになった。

別解例①

従来は王権や身分秩序に求められていた統治の正当性が、市民や国民の同意に求められるようになることを指す。支配は上から与えられるものではなく、政治共同体の成員によって支えられるものへ変化した。

別解例②

主権の再定義とは、国家を支える根拠が君主個人の権威から、国民全体の意思や権利へと移ることである。これによって政治秩序は身分制ではなく、市民的平等や法の下での統治を基礎とする方向へ進んだ。

◆ 問 2

イギリス革命は、王権と議会の関係をどのように変えたか説明せよ。

【王権 法 代表】

模範解答

イギリス革命は、王権が無制限に統治することを否定し、議会を通じた統治の正統性を強めた。とくに名誉革命以後は、国王も法と議会の枠内で統治すべき存在とされ、立憲君主制の基礎が築かれた。

別解例①

イギリス革命によって、王は神意によって絶対的に支配する存在ではなくなり、議会の承認を必要とする統治者へ変わった。これにより王権は制限され、法と代表機関を重視する政治秩序が成立した。

別解例②

王権と議会の対立を通じて、統治の中心は国王単独から議会を含む制度へ移った。名誉革命後には議会主権が確立し、王権は憲法的秩序の中に位置づけられるようになった。

◆ 問 3

アメリカ独立革命は、主権の所在をどのように示したか説明せよ。

【住民代表 主権 政治共同体】

模範解答

アメリカ独立革命は、国家の正統性が遠隔の王権ではなく、植民地の住民自身の同意に基づくべきだと示した。独立宣言は人民の権利と政府の正当性を結びつけ、主権が市民的共同体にあることを明確にした。

別解例①

アメリカ独立革命では、課税や統治は住民の代表を通じて正当化されるべきだという考えが前面に出た。これにより主権は本国の王ではなく、政治共同体を構成する人民に属するものとされた。

別解例②

植民地住民は、自らの権利を侵害する王権に従う必要はないと主張し、政府は人民の同意によって成立するという原理を打ち出した。ここに、主権が人民に由来する近代的理解が明確に現れた。

◆ 問 4

フランス革命は、主権と社会秩序の関係をどのように変えたか説明せよ。

【身分制 平等 国民】

模範解答

フランス革命は、主権の担い手を国王から国民へ移すだけでなく、身分制そのものを政治的正統性の基礎から排除した。自由と平等の理念の下で、国家は特権身分の秩序ではなく、国民全体を基礎とするものへ再編された。

別解例①

フランス革命は、主権が国民にあることを宣言すると同時に、貴族や聖職者の特権秩序を否定した。これにより社会秩序は身分ではなく、法の下での平等と国民的統合を基礎に組み替えられた。

別解例②

王権に代えて国民が主権の主体とされ、旧体制を支えていた身分的特権は正当性を失った。革命は政治の原理だけでなく社会の構造も変え、国民国家的秩序への転換を促した。

◆ 問5

イギリス革命・アメリカ独立革命・フランス革命を通じて、主権の理解がどのように変化したか論ぜよ。

【王権 市民 政治共同体】

模範解答

これら三つの革命を通じて、主権は王の固有権から、市民や国民の意思に基づくものへと再定義された。イギリスでは王権が議会によって制限され、アメリカでは人民の同意が国家の正統性の基礎とされ、フランスでは国民主権と法の下での平等が社会秩序そのものを組み替えた。近代国家はこうして、身分や神授ではなく、政治共同体の成員によって正当化される体制へ進んだ。

別解例①

近代の諸革命は、支配の根拠を王や伝統から切り離し、市民や国民へ移した。イギリスは議会を通じた制限君主制、アメリカは人民の同意に基づく独立国家、フランスは国民主権と平等原理を掲げ、主権の担い手を根本から変えた。これにより国家は君主の所有物ではなく、国民の政治共同体として理解されるようになった。

別解例②

イギリス革命は王権を法と議会の下に置き、アメリカ独立革命は人民の権利と政治的同意を国家の基礎とした。さらにフランス革命は主権を国民全体に帰し、身分秩序を否定した。こうした変化を通じて、近代では主権は超越的権威ではなく、市民的共同体の内部に根拠を持つものとして理解されるようになった。

一文要約

近代革命は、主権の担い手を王から市民・国民へ移した。

派生問い

- ・ 市民や国民が主権者であるなら、実際にはだれが政治を動かすのか。
- ・ 国民主権は、古代ポリスの市民政治とどこが似ており、どこが異なるか。
- ・ 革命は自由を広げただけでなく、新たな排除も生んだのではないか。

教科書ナビ

- ・ **イギリス革命**：「ピューリタン革命」「名誉革命」「権利の章典」の節を見て、王権がどのように議会によって制限されたかを確認する。
- ・ **アメリカ独立**：「独立宣言」「代表なくして課税なし」の記述を読み、人民の同意が統治の正当性とどう結びついたかを整理する。
- ・ **フランス革命**：「人権宣言」「旧制度の廃止」「国民公会」などの項目を見て、主権と社会秩序がどう同時に組み替えられたかを押さえる。

第 16 章 産業革命と生産様式の転換

中心問い

機械と工場は、社会をどのように組み替えたのか。

◆ 問 1

産業革命とは何か説明せよ。

【機械 工場 技術 社会 再編】

模範解答

産業革命とは、機械制工業と化石燃料の利用によって生産力が飛躍的に高まり、工場制生産が社会の中心となる変化である。それは単なる技術革新ではなく、労働・都市・階級関係まで再編する生産様式の転換を意味した。

別解例①

産業革命は、蒸気機関や機械制工業の普及によって生産が工場へ集中し、従来の手工業中心の経済が大きく変わる現象である。エネルギーと労働の使い方が変化し、社会全体の構造にも深い影響を与えた。

別解例②

手工業や家内工業を基盤とした社会が、機械・工場・石炭を軸とする生産体制へ移ることを産業革命という。生産量の増大だけでなく、働き方、都市化、階級構造の変化まで伴った点に本質がある。

◆ 問 2

なぜ産業革命はイギリスで先行したのか説明せよ。

【農業革命 石炭 海外市場 議会政治 財産権】

模範解答

イギリスでは農業革命による人口増加と労働力流動化、豊富な石炭資源、海外市場、商業資本の蓄積が重なり、機械制工業が成立しやすかった。さらに私有財産と投資を保護する制度も整い、産業革命を先行して担う条件がそろった。

別解例①

イギリスは石炭に恵まれ、農業生産の向上で余剰人口が生まれたうえ、植民地と海上交易を通じて広い市場と資本を得ていた。さらに投資や発明を支える制度が整っていたため、工場制生産を先んじて発展させることができた。

別解例②

農業革命による労働力の移動、豊富な石炭、商業資本の蓄積、植民地市場の存在がイギリスの優位を支えた。加えて議会政治と財産権保護が企業活動を後押しし、機械制工業の導入が他地域より早く進んだ。

◆ 問 3

産業革命は都市と階級構造をどのように変えたか説明せよ。

【農村 資本家 労働者 社会問題】

模範解答

産業革命は工場労働を拡大し、人々を農村から都市へ引き寄せた。機械を所有する資本家と、賃金で働く労働者の分化が進み、生活と労働の場も分離した。その結果、都市問題や労働問題が顕在化し、社会の組織原理そのものが変化した。

別解例①

工場制生産の拡大は農村人口を都市へ集中させ、家内労働に代わって時間と規律に従う賃労働を広げた。資本家と労働者の区別が鮮明になり、住宅・衛生・長時間労働など新しい社会問題が生じた。

別解例②

産業革命によって生産は工場へ集まり、都市化が進展した。土地や身分よりも資本と賃金労働の関係が社会の中心となり、階級分化が深まったため、近代的な労働問題と都市問題が広く現れることになった。

◆ 問 4

産業革命と農耕革命の共通点と相違点を説明せよ。※農「業」革命ではない。

【余剰 国家形成 階級 社会構造】

模範解答

農耕革命が定住と余剰を通じて国家や階層社会の基盤を作ったのに対し、産業革命は機械と化石燃料によって生産力を急拡大させ、工場・都市・資本主義的階級関係を生み出した。両者はいずれも生産様式の転換として社会全体を再編した点で共通する。

別解例①

農耕革命は食料生産の安定化から定住と国家形成を促し、産業革命は工場制生産の成立を通じて都市化と階級社会を進めた。結果は異なるが、どちらも生産の仕組みが変わることで社会構造全体が組み替えられた点で共通している。

別解例②

農耕革命では余剰と定住が社会秩序の原型を作り、産業革命では機械制工業と賃労働が近代社会の骨格を作った。ともに技術や生産方法の変化が、人口配置・階層・統治のあり方まで変える契機となった。

◆ 問 5

産業革命が近代社会の形成に与えた影響を論ぜよ。

【生産様式 再編 近代資本主義社会 矛盾】

模範解答

産業革命は、機械・工場・化石燃料を基盤とする新たな生産様式を成立させ、労働・都市・階級関係を大きく組み替えた。イギリスで先行したこの変化は、商業資本や海外市場と結びつきながら拡大し、国家の力と結びつく近代資本主義社会を形成した。同時に労働問題や格差も拡大し、近代的統合の強化と矛盾の双方を生み出した。

別解例①

産業革命は、従来の手工業社会を機械制工業と工場制生産の社会へ転換し、都市化と階級分化を急速に進めた。商業資本、海外市場、国家制度がそれを支えた結果、近代資本主義は大きく成長したが、労働者の貧困や生活環境の悪化も進み、近代社会の矛盾が同時に深まることになった。

別解例②

機械制工業の普及は生産力を飛躍的に高めたが、その影響は経済にとどまらなかった。農村から都市への人口移動、資本家と労働者の分化、国家財政と市場の拡大が重なり、社会全体が近代的に再編された。他方で労働条件や格差の問題も深まり、近代の発展と矛盾は同時進行することとなった。

一文要約

産業革命は、生産様式の転換を通じて近代社会の骨格を作った。

派生問い

- なぜ産業革命は、単なる技術革新ではなく社会革命でもあったのか。
- 生産力の増大は、必ずしも人々の生活向上を意味するのか。
- 農耕革命と産業革命を並べてみると、国家や階級のあり方はどう異なるか

教科書ナビ

- **産業革命の開始**：「イギリスの産業革命」「蒸気機関」「綿工業」の節を見て、なぜ工業化がイギリスで先行したかを確認する。
- **農業革命との関係**：「農業生産の向上」「囲い込み」の記述を読み、人口移動と労働力供給の関係を整理する。
- **社会の変化**：「都市化」「労働問題」「資本家と労働者」の項目を見て、生産様式の変化が社会構造へどう波及したかを押さえる。

第 17 章 国民国家と動員の構造

中心問い

なぜ近代国家は、人々を「国民」として組織し動員できたのか。

◆ 問 1

国民国家とは何か説明せよ。

【領域 人々 統合 国民 帰属意識】

模範解答

国民国家とは、一定の領域に住む人々を共通の言語・歴史・制度によって「国民」として統合し、その国民を主権の担い手とみなす国家である。単なる支配装置ではなく、成員の帰属意識と政治的正統性を結びつける点に特徴がある。

別解例①

国家の成員が共通の文化や歴史意識を持つ国民として把握され、その国民に主権が属するとされる国家をいう。領域支配と国民統合が結びつき、政治秩序が正当化される点に特色がある。

別解例②

国民国家とは、同じ国家に属する人々を共通の国民として組織し、その集合を政治の基礎とする国家である。国家は法や制度だけでなく、教育や象徴を通じて成員の一体感も形成していく。

◆ 問 2

フランス革命後の徴兵制は、国家と国民の関係をどのように変えたか説明せよ。

【国民の義務 防衛 動員】

模範解答

フランス革命後の徴兵制は、戦争を王の私的事業から国民全体の問題へ変えた。人々は臣民ではなく国家防衛を担う国民として位置づけられ、国家もまた彼らに権利と義務を結びつける存在へ変わった。ここに近代的な国民動員の原型が現れた。

別解例①

徴兵制によって国家は人民を直接兵士として組織し、戦争への参加を国民の義務とした。その結果、国家への帰属意識と政治参加の論理が結びつき、国民国家は軍事動員を通じて成員を統合するようになった。

別解例②

革命後のフランスでは、軍隊が傭兵や王の家臣ではなく国民から構成されるようになった。これにより国家は人々を直接把握し、権利の主体であると同時に防衛の担い手として動員する体制を築いた。

◆ 問 3

公教育や国語の整備は、どのように国民形成を支えたか説明せよ。

【価値観 歴史 帰属意識】

模範解答

公教育や国語の整備は、地域ごとに異なる言語や慣習を持つ人々に共通の知識・価値観・歴史意識を与えた。これにより国家は、法や軍事だけでなく学校や言語政策を通じて人々を統合し、「同じ国民」という感覚を育てることができた。

別解例①

近代国家は学校教育や標準語の普及を通じて、人々に共通の歴史や規範を学ばせた。こうして地域差を越える共通意識が形成され、国民国家は成員の内面にまで及ぶ統合を進めた。

別解例②

公教育は読み書きや知識の普及にとどまらず、国家への忠誠や共通の歴史認識を教える役割を持った。国語の標準化も加わり、人々は地域共同体を越えて国家全体への帰属意識を持つようになった。

◆ 問 4

国民国家と多民族帝国の違いを説明せよ。

【意思 一体性／支配 軍事力】

模範解答

国民国家は、国家の正統性を共通の国民の意思に求め、その国民を一つの政治共同体として統合しようとする。他方、多民族帝国は異なる民族や文化を一人の君主や支配装置の下で統治するため、統合の根拠が国民的一体性よりも王朝や帝国秩序に置かれる点で異なる。

別解例①

国民国家では国民の共通性が国家の基盤となるが、多民族帝国では複数の民族や宗教を包み込みながら支配が成り立つ。前者が国民的一体化を志向するのに対し、後者は差異を抱えたまま統治を維持する構造を持つ。

別解例②

国民国家は言語・歴史・教育などを通じて単一の国民形成を進めるが、多民族帝国は多様な集団を王朝や軍事力の下に統合する。したがって、両者では統治の正統性と統合の方法が大きく異なる。

◆ 問 5

近代国家が人々を「国民」として動員できた理由を論ぜよ。

【主権 教育・軍事・納税 意識】

模範解答

近代国家が人々を国民として動員できたのは、主権の根拠を国民に置く政治理念と、産業化・教育・徴兵制を通じた社会的組織化が結びついたためである。国家は権利の主体として人々を包摂する一方、軍事や納税、教育を通じて彼らを直接把握した。こうして国家は法と制度だけでなく、意識や身体次元でも人々を統合する強力な装置となった。

別解例①

国民主権の理念により、人々は国家の外に置かれた臣民ではなく、その構成員とみなされるようになった。さらに公教育、国語、徴兵制、行政の整備によって国家は個々人を直接組織し、帰属意識と義務を結びつけることで国民的動員を可能にした。

別解例②

近代国家は、政治的には主権者として、社会的には教育・軍事・納税の対象として人々を取り込んだ。産業化による社会再編もこれを支え、国家は成員の生活や意識を一元的に組織しうるようになった。その結果、人々は国民として統合され、大規模な動員が可能となった。

一文要約

近代国家は、権利と義務を結びつけることで人々を国民として動員した。

派生問い

- ・ 国民国家は人々を解放したのか、それとも新たに縛ったのか。
- ・ 公教育や徴兵制がなければ、国民意識は同じように成立しただろうか。
- ・ 現代国家の「国民」は、近代に形成されたそれとどこが同じでどこが異なるか。

教科書ナビ

- ・ **フランス革命後の国家**：「国民公会」「総力戦」「徴兵制」などの記述を見て、国家と国民の関係がどう変わったかを確認する。
- ・ **国民国家形成**：「ドイツ統一」「イタリア統一」「国民意識」の節を読み、国家形成と国民形成がどう結びついたかを整理する。
- ・ **教育と統合**：「公教育」「国語」「近代国家の制度」の項目を見て、学校や言語政策が統合に果たした役割を押さえる。

第 18 章 帝国主義と世界分割

中心問い

国民国家は、なぜ外へ向かって帝国化したのか。

◆ 問 1

帝国主義とは何か説明せよ。

【工業化 軍事力 植民地 支配】

模範解答

帝国主義とは、工業化と国民国家化を進めた諸国家が、資源・市場・投資先・戦略拠点を求めて他地域へ政治的・軍事的に進出し、不平等な支配関係を築く動きである。近代国家の外的拡張として現れた点に特徴がある。

別解例①

帝国主義とは、近代国家が経済的利益と軍事的優位を背景に、他地域を支配圏へ組み込み、植民地や半植民地を形成していく動きである。産業資本・国民国家・軍事力が結びついて世界分割を進めた。

別解例②

工業化した国家が、自国の発展を支えるために海外の市場や資源を求め、軍事力や外交力を用いて他地域を支配下に置こうとする動きを帝国主義という。近代の国家統合が外部への拡張に転じた形態である。

◆ 問 2

帝国主義は、なぜ工業化した国家において強まったのか説明せよ。

【原料供給 投資先 競争 威信】

模範解答

工業化した国家では、大量生産を支える原料供給地や商品市場、余剰資本の投資先が必要となった。さらに国民国家間の競争が激化し、軍事的優位や威信も重視されたため、経済的必要と政治的対抗意識が結びついて帝国主義が強まった。

別解例①

産業革命後の国家は、工場生産を支える資源と販路を国外に求めるようになった。同時に列強間の対立が深まり、海外領土の獲得が国力や威信の象徴となったため、工業化国家ほど帝国主義的拡張へ向かいやすかった。

別解例②

工業化は国内生産力を高めたが、その維持には原料、市場、投資先が必要であった。そこへ国家間競争と軍備拡張が重なり、海外進出は経済政策であると同時に国民国家の自己主張の手段ともなった。

◆ 問 3

イギリス・フランスなどの帝国主義と、ドイツ・アメリカ・日本など後発国の帝国主義の違いを説明せよ。

【既得権益 競争意識 攻撃的】

模範解答

イギリスやフランスは、早くから海上交通と植民地網を整え、広い既得権益を持つ帝国として行動した。これに対しドイツ・アメリカ・日本などの後発国は、既存の分割秩序の中で遅れて進出したため、より強い競争意識と再分割志向を帯びやすかった。

別解例①

先行列強は既に広域植民地や海上拠点を保有し、それを維持・拡張する形で帝国主義を進めた。他方、後発国は十分な植民地を持たないまま工業化したため、世界再分割への要求を強め、対立を激化させる傾向があった。

別解例②

イギリスやフランスの帝国主義は、既存の植民地支配を基盤に安定的拡張を図る色彩が強かった。これに対し後発国の帝国主義は、世界分割の遅れを取り戻すため急速で攻撃的な進出を試みる点に特徴があった。

◆ 問 4

帝国主義は、支配される地域の社会をどのように変えたか説明せよ。

【近代的交通網 整備 従属 不均衡な発展】

模範解答

帝国主義は、植民地や半植民地を資源供給地・市場・投資先として再編し、現地の経済や政治を外部への従属構造に組み込んだ。鉄道や港湾などの整備が進む一方で、在来産業の変質や政治的従属、社会の不均衡な発展も進行した。

別解例①

列強の支配は、被支配地域に近代的交通網や行政制度を導入することもあったが、その主目的は現地社会を列強経済へ従属させることであった。結果として、開発と搾取が同時に進む不均衡な社会変化が生じた。

別解例②

帝国主義は、支配地域を国際分業の中で特定の役割へ固定し、資源供給や商品購入の場として利用した。そのため交通や制度が整えられても、政治的自立や均衡ある産業発展は妨げられ、従属的構造が強まった。

◆ 問 5

帝国主義が近代世界の構造に与えた影響を論ぜよ。

【外部への支配 国際分業 不平等】

模範解答

帝国主義は、工業化した国民国家の内部で強まった経済的・軍事的統合を、外部への支配として拡張したものである。列強は資源・市場・投資先を求めて世界を分割し、植民地・半植民地を不均衡な国際分業へ組み込んだ。その結果、近代世界は一方で交通・交易・制度の面で結びつきを強め、他方で支配と従属、競争と対立を深める構造を持つに至った。

別解例①

近代国家は国民統合と工業化を進める中で、外部に対しては帝国主義的膨張を強めた。列強は世界各地を植民地や勢力圏として編成し、資源と市場を獲得することで自国経済を支えたが、同時に国際秩序は不平等化し、国家間競争も激化した。近代世界の統合は、支配と分断を伴う形で進んだのである。

別解例②

帝国主義は、国家・資本・軍事の結合が世界規模へ投影された結果であった。列強の進出は世界を交通・交易・制度の面で結びつけたが、その結合は対等なものではなく、被支配地域を従属的に位置づけるものであった。近代世界は、統合の進展と矛盾の拡大が同時に進む構造をここでいっそう明確にした。

一文要約

帝国主義は、内的に統合された近代国家が外へ向かって拡張した形である。

派生問い

- ・ 国民国家は、なぜ「国民のため」に外部支配を正当化できたのか。
- ・ 帝国主義は、近世の植民地帝国とどこが同じでどこが異なるか。
- ・ 交通や制度の導入は「近代化」か、それとも支配の技術にすぎないのか。

教科書ナビ

- ・ **帝国主義の背景**：「第二次産業革命」「独占資本」「列強の対立」などの節を見て、経済構造と国家間競争の関係を整理する。
- ・ **世界分割**：「アフリカ分割」「中国分割」「インド支配」などの記述を見て、列強がどのように世界を編成したかを押さえる。
- ・ **比較**：「イギリス・フランス」と「ドイツ・アメリカ・日本」の進出の違いを見比べ、先行国と後発国の帝国主義の性格差を確認する。

第 19 章 近代的統合の矛盾

中心問い

近代は人々を強く統合したが、なぜ同時に深い対立も生み出したのか。

◆ 問 1

近代的統合の矛盾とは何か説明せよ。

【一体化 格差 対立】

模範解答

近代的統合の矛盾とは、国民国家や資本主義が人々を共通の制度や市場へ組み込む一方で、階級格差、民族対立、植民地支配など新たな分断を生み出したことである。統合が進むほど、その内部と外部に排除や対立も生じた点に特徴がある。

別解例①

近代は市民的権利、国民統合、市場拡大を通じて人々を結びつけたが、すべての人を平等に包み込んだわけではなかった。労働者、女性、植民地の人々、少数民族などが周縁化され、統合と排除が同時に進んだ。

別解例②

近代的統合は、法・教育・軍事・市場によって社会を一体化した。しかしその過程で、資本家と労働者、支配国と植民地、国民多数派と少数民族の間に対立が生じた。近代は統合の力と分断の力を併せ持っていた。

◆ 問 2

産業化は、労働問題と社会主義の成立にどのようなつながったか説明せよ。

【資本家 労働者 貧困 権利】

模範解答

産業化は工場制生産と賃労働を拡大し、資本家と労働者の階級分化を進めた。長時間労働、低賃金、都市貧困などの問題が深刻化すると、労働者の権利を求める運動が広がり、資本主義の矛盾を批判する社会主義思想が生まれた。

別解例①

工業化によって生産力は増大したが、その利益は均等に分配されなかった。労働者は過酷な環境で働き、生活不安を抱えたため、労働組合や社会主義運動が発展した。産業革命は豊かさと同時に階級対立も生んだ。

別解例②

機械制工業は大量生産を可能にした一方、労働者を工場規律と賃金依存の生活へ組み込んだ。資本家との格差が拡大し、労働条件改善や社会改革を求める運動が起こったことで、社会主義思想が力を持つようになった。

◆ 問 3

国民国家は、なぜ民族問題を生み出したのか説明せよ。

【標準語 歴史 民族的差異 抑圧】

模範解答

国民国家は、共通の言語・歴史・文化を持つ国民を統合の基盤とした。しかし現実の国家には複数の民族や文化が存在することが多く、国民として認められる集団と周縁化される集団が生じた。国民統合は一体感を作る一方、少数民族問題も生んだ。

別解例①

国民国家は人々を同じ国民としてまとめようとしたが、その過程で標準語や共通の歴史が強調され、異なる言語や文化を持つ集団が抑圧されることもあった。統合の強さが、かえって民族的差異を問題化した。

別解例②

近代国家は国民的一体性を求めたため、国家内の多様な民族や地域文化を一つの枠へ組み込もうとした。しかし全員が同じ国民意識を共有するわけではなく、少数民族や被支配民族の不満が民族運動や分離要求につながった。

◆ 問 4

普通選挙や女性運動の拡大は、近代社会の矛盾をどのように示しているか説明せよ。

【財産 男性 平等 現実】

模範解答

近代社会は自由や平等を掲げたが、当初その権利は財産を持つ男性など一部に限られていた。普通選挙運動や女性参政権運動は、理念としての平等と現実の排除とのずれを明らかにした。権利拡大の運動は、近代の未完成性を示している。

別解例①

市民革命は権利の理念を広げたが、実際には労働者や女性は政治参加から排除されることが多かった。普通選挙や女性運動は、近代国家が掲げる平等を現実を広げようとするものであり、近代社会内部の矛盾を表していた。

別解例②

近代国家は国民を主権者としたが、誰が国民として十分な権利を持つかは限定されていた。選挙権拡大や女性運動は、国民統合の外側に置かれた人々が包摂を求めた運動であり、近代的平等の不完全さを示した。

◆ 問 5

近代的統合が生み出した矛盾について、労働・民族・権利の観点から論ぜよ。

【一体化 格差 少数民族 女性・労働者】

模範解答

近代的統合は、国民国家、産業資本主義、公教育、徴兵制などを通じて人々を共通の制度へ組み込んだ。しかしその統合は、同時に深い矛盾を生んだ。産業化は資本家と労働者の格差を拡大し、国民国家は少数民族や植民地の人々を周縁化した。また自由や平等を掲げながら、女性や労働者の権利は長く制限された。近代は人々を強く結びつけたが、その内部に新たな対立と排除を抱え込んだのである。

別解例①

近代は、市民的権利や国民統合、市場経済によって社会を一体化した。しかし産業化は労働問題を生み、国民国家は民族的同質性を求めることで少数者を排除し、自由の理念も当初は一部の人々にしか及ばなかった。労働運動、民族運動、女性運動は、近代が掲げた普遍的理念と現実の不平等との矛盾から生じた。したがって近代的統合は、発展と対立を同時に進めた構造であった。

別解例②

近代国家と資本主義は、人々を国民・労働者・消費者として広く組織した。その一方で、工場労働の拡大は階級対立を生み、国民統合は民族差異を抑圧し、権利の理念は女性や貧困層を十分に含まなかった。近代の矛盾は、統合が不完全だったからだけでなく、統合そのものが新たな境界線を作った点にある。

一文要約

近代的統合は、社会を強く結びつける一方で、新たな対立と排除を生んだ。

派生問い

- 近代は人々を自由にしたのか、それとも別の形で管理したのか。
- 「国民」として包摂されることは、誰かを排除することでもあるのか。
- 現代社会の格差や民族問題は近代の矛盾とどのようにつながっているか。

教科書ナビ

- **労働問題**：「産業革命後の労働者」「労働組合」「社会主義思想」の節を見て、生産様式の転換がどのような社会問題を生んだかを確認する。
- **民族問題**：「ナショナリズム」「多民族帝国」「民族運動」の記述を読み、国民国家の形成が民族的対立とどう結びついたかを整理する。
- **権利の拡大**：「普通選挙」「女性参政権運動」「社会改革」の項目。

第四分冊まとめ

本分冊では、近代世界がどのように成立し、どのような矛盾を抱えたのかを見てきました。

近代は、王権や身分制を前提とした世界から、市民や国民を政治の主体とする世界へ移行した時代です。また、産業革命によって生産様式が大きく変化し、資本家と労働者、都市と工場、賃労働と市場を中心とする社会が成立しました。さらに国民国家は、人々を共通の言語・教育・徴兵・制度によって統合し、強力な動員力を持つようになりました。

その一方で、統合された国民国家は外部へ拡張し、帝国主義によって世界を不均衡に分割していきます。この流れをまとめれば、次のようになるでしょう。

① 主権の再定義

市民革命によって、支配の正統性は王や神授の権威から、市民・国民の意思へと移った。国家は君主のものではなく、政治共同体の成員によって支えられるものと考えられるようになった。

② 生産様式の転換

産業革命によって、社会の中心は農業や手工業から、機械制工業と工場制生産へと移った。これにより都市化、階級分化、労働問題が進み、近代資本主義社会の骨格が形成された。

③ 国民国家と動員

近代国家は、公教育・国語・徴兵制・行政制度を通じて人々を「国民」として組織した。人々は権利を持つ主体であると同時に、納税・兵役・教育を通じて国家に直接把握される存在となった。

④ 帝国主義と外的拡張

工業化した国民国家は、資源・市場・投資先を求めて外部へ進出した。その結果、植民地や半植民地が形成され、世界は交通や経済で結びつきながらも、支配と従属の関係を深めた。

⑤ 近代的統合の矛盾

近代は自由・平等・国民主権を掲げたが、実際には多くの人々が排除された。労働者、女性、少数民族、植民地の人々は、近代的統合の外側や周縁に置かれ、そこから労働運動、女性運動、民族運動などが生まれた。

本分冊の一文要約

近代世界は、国民・資本・国家を強く結びつける一方で、階級・民族・植民地をめぐる深い矛盾を生み出した。

次分冊への問い

第四分冊では、近代的統合が成立し、その矛盾が深まるところまでを見ました。では、その矛盾はどこへ向かうのか、次の分冊では、次のような問いを扱うことになります。

- ・ なぜ近代国家は総力戦へ向かったのか。
- ・ 第一次世界大戦は、国民国家と帝国主義の矛盾をどう爆発させたのか。
- ・ ロシア革命や社会主義は、近代資本主義の矛盾にどう応答したのか。
- ・ 第二次世界大戦と冷戦は、世界秩序をどう再編したのか。
- ・ 脱植民地化とグローバル化は、近代の支配構造を終わらせたのか、それとも形を変えて残したのか。

第五分冊では、総力戦・革命・冷戦・脱植民地化・グローバル化を通じて、近代の矛盾が世界規模で爆発し、再編されていく過程を扱います。